「祝!! 同窓生が教授就任」

この度、２期生の徳田安春先生が筑波大学大学院人間総合科学研究科臨床医学系教授に、５期生の西田教行先生が長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・感染免疫学講座・感染分子解析学分野教授に、８期生の金城貴夫先生が母校の保健学科生体検査学講座形態病理学分野教授に、９期生の関根吉統先生が千葉大学社会精神保健教育研究センター　治療・社会復帰支援研究部門教授に就任されました。

我々同窓会会員にとっても大変喜ばしいニュースですので、今後の抱負について寄稿していただきました。

筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター」

筑波大学大学院人間総合科学研究科臨床医学系 教 授　徳　田　安　春（２期生）

琉球大学医学部医学科同窓会の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。さて、平成21年４月１日、水戸協同病院内に筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターが開設されました。センター長は渡邊重行先生（筑波大学大学院人間総合科学研究科臨床医学系循環器科教授）です。私は、同日、筑波大学大学院人間総合科学研究科臨床医学系教授に就任し、同水戸地域医療教育センター副センター長兼任として水戸協同病院総合診療科にて勤務開始しいたしました。

全国的に総合医育成の必要性が急速に高まっている中、今後は地域医療の最前線で活躍することのできる「実力派の臨床医」を数多く養成する努力が益々求められると思います。そのような努力の一つのモデル事業となるべく、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターが、国立大学法人では過去に例をみない全く新たなプロジェクトとして、厚生連系の一民間病院である水戸協同病院内に開設されました。高度医療を必要とする疾患の診療を得意とする大学病院の特徴とコモンディジーズの診療を得意とする一般病院の特徴をそれぞれ生かし、「実力派の臨床医」を数多く養成するための、偏りのない幅広い研修を可能とした、地域に根差した診療と医学教育を目指して設立しました。

一方で歴史を振り返ってみると、江戸時代、水戸藩徳川家の九代藩主徳川斉昭公は、水戸藩に医学教育のためのセンターが必要と考え、総合的な医学教育と研究を実施するための「医学館」を弘道館に設けていました。この医学館には、斉昭公が医学館開設の趣旨を記した「賛天堂記」の額が掲げられ、弘道館内医学館からわが国のあるべき医学教育体制を発信したいとする斉昭公の抱負が示されました。賛天堂記の賛天とは、四書の一つである中庸に、「能尽物之性、則可以賛天地之化育（能く物の性を尽くせば、即ち以って天下の化育を賛くべし）」という文の中から斉昭公が二文字を選んだものです。現代語訳では、「医師が全人医療に尽くせば社会の健やかな発展に寄与することになる」という意味にも取れます。とすればまさに、水戸地域への地域医療教育センターの設置は、わが国のあるべき医学教育・医療体制を発信する使命を担って設立された弘道館内医学館の精神を引き継ぐものであると思います。